

第 10 回「三世代をつなぐ駒カフェ」開催の報告

第 10 回「三世代をつなぐ 駒カフェ（保護者対象）」は、2022 年 3 月 19 日（土）13 時から 15 時半まで、開催された。今回も、新型コロナウイルス感染拡大を考慮して、対面を避けたリモート開催となった。OB スタッフは、Zoom システムのブレイクアウトルーム機能の使い方、注意点などについて調査し、事前練習を行って対応した。今回の参加予定者は 2 名だったが、1 名が当日に急用のため不参加になり、高 1 の保護者 1 名のご参加だった。また、サプライズゲストとして 39 回生の片寄雄介さんにご参加いただきました。今回の保護者様から、①「7 回生のみなさんの頃には、どんな部活動がありましたか？」、②「先輩や後輩とのつながりは、進学してからもありましたか？」と二つのテーマをいただいた。

駒カフェは、最初に参加者が自己紹介と今感じていることなどの話からスタートして、部活動や卒業生のつながりについての話が展開された。活発な意見交換のうちに、あっという間に予定時間となった。

参加保護者の感想

駒 cafe に参加させていただき、ありがとうございました。部活動や駒場東邦の生活を通して経験できるさまざまなことが今後の人生の中で生きてくると先輩方の経験談から感じられました。また、卒業して以降の同窓生の集まりや邦友会の温かさなど学校の素敵な一面をあらためて知ることができました。あと半年間部活動に力を注ぐ様子をそっと見守り、学業にも少しずつ目覚めてくれることを願いたいと思います。

駒 cafe につきましては、ホームページと併せて紙での配布(カウンセリングルームからのお知らせにご紹介など)もあると目に触れる機会が増えていいかもしれないですね。今回のように、7 回生の先輩方+ゲストで来て下さる卒業生がいらっしゃるとさらに話が広がるように感じました。高下さんのような支援者がいらっしゃれば zoom での開催(遠方や時間に制約のある方)は、私にとってはとても良かったです。

私は随分恩恵を受けていますが、これからより多くの方が参加されて駒場東邦で育まれる子どもたちを温かく見守る輪が広がることを願っております。

スタッフの感想

① クラブ活動の意義やそこでの人とのつながりが話題になりました。わたしの場合は大学でのそれがメインでしたが、確かにそこで得たものはこれまでの人生をとっても豊かなものにしてくれたことを改めて噛みしめました。また、クラブ活動にある程度の達成感をもつことで学業に専念していけるというご指摘は鋭いと思いました。参加者の多様なクラブ活動のお話しもたいへん興味深く、こうしたお話しができる駒カフェはとても貴重な場であると実感しました。



② 駒カフェも10回を数えて当初私たちが思っていたようになっているのか振り返る時期がきています。このところ Zoom での開催が続いていますが本音で言うと人間の心の触れ合いは対面でないと不十分だなと痛感しています。10回目も Zoom で参加してくださった保護者の案で私たちの駒東時代の部活動がテーマになりました。私たちは懐かしい思い出の数々を語りました。私は話しながら自分が駒東生であって良かったなと再認識しました。ともあれ駒カフェにもう少し多くの生徒さんたちや、保護者の方々にご参加いただきたいと思っています。駒カフェの存在の意味をどうしたらアピールできるのか。そのためには我々年寄りが魅力あるスタッフにならないと……などと思っています。

③ 善通寺（香川県）の境内から参加する積りでしたが、風雨がひどくなり、讃岐うどん屋さんへ退避。フルに参加できなかったのが残念です。感想のかわりに、旅行の紹介と今回の話題のクラブ活動について、ご紹介させていただきます。

[旅行の地] 空海は、中学1年の漢文で、「空海善書」（空海書を善くす）という文の「空海乃裂軸」（注）と習ったことから、行きたかった場所でした。この地域は、讃岐富士（飯野山）などのおむすび山（プレート境界のマグマ活動による）が目立ちます。

[クラブ活動] 中高時代は、興味を持つことに挑戦できた時期でした。中1の時、部屋を間違えて（興味は？）ESSの説明会に参加。外人講師のペリウス先生に誘われて、そのまま入部。英会話に触れたのも楽しい思い出でした。理科クラブも捨て

がたく参加。文化祭で、粘土の山に、砂糖と塩素酸カリウムを仕掛けて硫酸をかける噴火の展示をした時、混ぜ方で噴火も変わるはずと、密かに大実験。爆音と炎で、山の上部が粉々になったのは、先生には秘密の仲間だけの思い出でした。バトミントン部がなく、数人で自主クラブ活動。先生の忠告も聞かずに、高3の2学期まで続けた後に、相棒が推薦入学と分った時は、複雑な思い出でした。先生と10人位（もっと居たかも）で行った山、キャンプ、スキーも、楽しい思い出です。

注： 嵯峨天皇が、唐の作者不詳の手本になる書があると空海に話した。空海がその書の軸に執筆の記録を残しており、「軸を裂く」ことで空海筆であることを明らかにしたという逸話。

④ 駒東卒業直後から邦友会の活動に参加しました。当時は、会員も少なく、会員相互の親睦のみを目指し活動していました。その後、会員数は順調に伸び、大きな組織に成長しました。50周年事業として「人材育成基金」を設立し、「母校の発展に協力する」という目的でも活動できるようになりました。それから10数年経ち、小さな活動ですが、邦友会活動とは別に「駒カフェ」という形で現役生徒、保護者の方々とより近い形で会話を楽しみながら人材育成の支援をする活動に参加しました。一年ほど、対面、ZOOMなどいろいろな形で活動してきました。まだ小さな活動の域を脱してはいませんが、手応えは確かに有り、徐々に活動範囲が広がるように頑張っていきたいと考えています。今後に向かっては、邦友会との連携も視野にいれながら進んでいきたいと思えます。

⑤ 60年前の懐かしい駒東の生活がぼんやりと浮かんで来ました。自分の無能さを思い込みでしかないことに気付かずに6年間過ごしたことに浸りました。少年時代の思い込みは人生の方向の探索を始めるきっかけとなりました。駒東の隣の第三機動隊に柔道を仕込まれていたのも、大学時代、学生運動のデモで、みんなが本気で第四機動隊とぶつかっているのに何処か本気になり切れませんでした。駒東文化の素地の一つだと、勝手に思えます。

駒東世界の本質は、少年時代に相当ぶれたとしてもどこかに居場所があって、その中でうろうろしていると、懐の大きな先生にぶち当たる可能性が高い。この瞬間、駒東生の能力が解放される現実を自分自身にも友人たちにも見てきたと思えます。この時代、爺さまたち、OBと夢を語れば、その機会を大きく充当し、より豊かな駒東世界があると思えます。

⑥ 主なテーマは「部活動」でした。ひとつの部活に熱心に取り組んだ人、兼部した人、部活を転々とした人…様々な学校生活模様がうかがえました。色々な時期・部活のお話を聞きましたが、自主・自律の精神は創立初期からずっと受け継がれているのだなと感じました。

⑦ Zoom での開催で、参加人数が多い時にはいくつかのグループに分けてディスカッションすることが出来るように準備を進めてきました。今回は、保護者の参加者が1名、サプライズゲストのOBが1名だったので、グループ分けをしないで開催しました。最初にテーマが部活動についてだったが、参加者の学生時代の部活動のことなど、いろいろな観点からの発言があり、話が大変盛り上がりました。

そして、先輩と後輩のつながりについては、駒場東邦には、大学に進学してからも社会人になってからも、先輩が後輩の面倒を見てくれることがあること。たとえば、海外の大学・大学院に進学、あるいは、社会人として海外赴任になった時も、赴任先で活躍しているOBにアドバイスを求め、海外の情報を得ることが出来ることなど、駒場東邦は縦のつながりがあることを生徒たちへもっと具体的に伝えていきたいと感じています。



「三世代をつなぐ駒カフェ」運営事務局

代表 黒岩 誠

(駒場東邦7回生 / 前スクールカウンセラー)

平野 勲

(駒場東邦中学高等学校 特別顧問 / 前校長)

連絡先 komacafe1540001@gmail.com